

☆短コン解説と順位戦出品が最近の活動の主流。すっかり季節労働者に。

市島 啓樹

持駒 金

										一
									科	二
									科	三
									馬	四
									龍	五
									香	六
									桂	七
									銀	八
									歩	九
9	8	7	6	5	4	3	2	1		

(近代将棋 平成20年1月号)

- 1 四馬、2 六玉、2 五金、3 六玉、
1 五金、2 六玉、2 五金、3 六玉、
2 四金、2 六玉、3 五銀、同 桂、
2 五金、3 六玉、1 五金、2 六玉、
2 四飛、同 桂、2 五金、3 六玉、
2 四金、2 六玉、2 五金、3 六玉、
4 八桂、同 龍、1 五金、2 六玉、

- 1 六金、同 玉、1 七香、2 六玉、
1 五馬、3 六玉、2 五馬迄35手詰。

☆知恵の輪は詰将棋の中で最も好きな分野ですが、作図技量が無いため、なかなか創作できません。本作はそんな私がモノに出来た、という点で印象に残っている作品です。

馬と金だけが軸のカワイイ仕組みですが、その割にキー設定はうまく出来たかな、と思っています。最初に銀をはがした後、1 五銀から桂をはがすのではなく、3 五銀で穴を埋めるだけにしたのが工夫です。ちなみに3 五銀に同玉は5 五飛、4 四玉、4 五金、4 三玉、3 三金以下、少し長いですが詰みます。この3 三金がポイントで、このために3 五銀を打つ前に金を2 四に移動させる必要があるわけです。
3 五を埋めてから2 四に桂を跳ねさせてその桂を取り、4 八桂で龍をさらせばゴールです。収束少し物足りない

かもしれないですが、あまり長くするのは趣向の美しさが壊れるかな、と。還元玉での詰上りも個人的に満足のいく仕上がりです。

手の付けられない難しさも悪くないですが、こういった「届きそうでなかなか届かない」作品も悪くない、と思いませんか？少なくとも私はこういった作品が大好きです。

- ① 昭和45年12月11日。② 仙台市 <http://sleepingfrog.air-nifty.com/diary/>。
③ 会社員。④ 冬眠蛙、余詰屋本舗など。
⑤ 将棋マガジン平成5年2月号。⑥ 100局位？⑦ 昔は四段。⑧ 前記アドレスにPDF版の作品集を展示しています。
⑨ 昔は「自分」と言い放ったことも。いやあ若かったなあ。⑩ 難解系作品への評価が最近難しいなあ、と思います。
⑪ 読書、サッカー観戦等。